

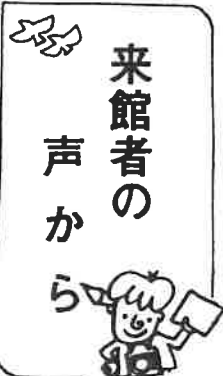


船を見つめた瞳 和歌山県田辺市

上芳養中学校3年生 (84.5.23)

「百聞は一見にしかず」。しっかりと保存されているので、うれしく思います。また、「ビデオ」廃船はよく納められ、現実の第五福竜丸を見る目が違ってくる

期待に違わず、矢張り充実してました。決して大きくはない館ですが、展示をはじめビデオコーナー等々、その内容は可成りのものでした。ヒロシマ、ナガサキ、そして第五福竜丸という、まさに原爆の今日性が整然としていました。館の姿勢もいいですね。平和を願う情熱がヒシヒシと伝わって来ました。この今日の感動を、明日からの教育に生かしていきたいと思えます。今後とも頑張ってください。



来館者の声から

いへ神奈川県立相武台高校、楠善男(国語)。

以前から一度は来てみたいと思ってた夢がようやく実現しました。まさしく、歴史の証人をこの目で見る。No. More 第五福竜丸との思いを強くし、一層の平和教育をしっかりとやらねばと痛感しました。また、いつの日か生徒たちを連れて見学に来たいものです。

「ほんとうに来てよかった」と充実した気持ちであります。ありがとうございました。同右、綿引光友(社会)。

「百聞は一見にしかず」。しっかりと保存されているので、うれしく思います。また、「ビデオ」廃船はよく納められ、現実の第五福竜丸を見る目が違ってくる

保存運動—おりおりの想い出

三井周二

第五福竜丸展示館が、この六月十日で開設八周年を迎えた。私が船に初めて合ったのは、今から十六年前で、ゴミの山の中にうずまり、美人だとは、お世辞にもいえなかった。痛々しく、そして無惨であり、これが、あのビキニの船か。鼻をつまむような悪臭の中でもありました。

故、広田重道氏が船を自分の子供のように、いとおしみ、愛し、私財を投げ打ってまで、人間として何をなすべきか、その大きな胸で考え、展示館の館長としても保存運動を推進された。入館者が五十九年五月初旬で、四十七万人を越えたといわれる今、広田さんの格式ばらず、角ばらず、理屈やお説教もない、人の心を打つような、いくつものアイディア、そんな暖かなおりを、私は想い出します。

保存運動が支えられてきたこと、第五福竜丸が核兵器廃絶のための告発の船であり、立場の違いを乗り越えて、なお守り育むことを訴えていました。建築にたずさわる仲間が、多く集っている組合の「東建従」は、この保存運動にも、こつこつと、かかわってきました。丘に上って破損の激しい船を、時々見ると、傷の手当をし、いたわってききましたが、昨年、船体がハジケているのを見て心配のあまり、大工の加藤庄太郎さんと私は船室にもぐり込んだ。船の中は既に石化し、ふればポロポロと崩れ落ち、身の危険さえ感じました。丁度、七周年記念の祝賀会が日比谷の松本楼で行われるのを幸いと、船内の断片を持ちこみ、緊急処置を訴えました。

期待感、つぎにあげる「来館者の声から」の一篇でも、はかり知ることができません。「水ばくなんかの恐ろしさは、社会科でもならったし、原爆のおそろしさは映画でみた、でも、この船をみて、はじめて恐ろしさがわかった、こんなことは、ぜったいにやめて、第五福竜丸を見ていただけで、涙がでそうだった」船が展示館におさまり、無言の教示をしていることでは、嬉しい反面、もしかしたら悲しいことではないかとも思う、船が朽ちる。この船にとって、もっとも幸福なことは、大きな海に帰り、深々と沈んでいくことではないのか。私は声にならない所で、問うこともありません。しかし、第五福竜丸が再び核使用のあやまちを起させないためにも、歴史を語りつぐものとして使命を続け、まっとうしてもらおうことが、私達の念願であります。そして、更に保存運動が発展し、やがては展示館と並んで、資料館が開設され、第五福竜丸が素晴らしい船として、我々の目に映る日がくることを。:(:(東京建設従業員組合書記長・第五福竜丸平和協会評議員)

100万人参観者運動を!

Table with visitor statistics: 84年5月来館者数 10,501名, 通算1カ月平均来館者数 4,945名, 当月1日平均来館者数 404名, 通算来館者数 474,724名

福竜丸だより 都立・第五福竜丸展示館ニュース (財) 第五福竜丸平和協会 〒136 東京都江東区夢の島3-2 都立・第五福竜丸展示館内 電話(521)8494

ました。充実した一日を送ることができました。ありがとうございました。同右、山口光一(化学)。

保存される経過に、市民のひたむきな努力があったことを、初めて知りました。今日は生徒たちと来て本当によかったと思います。へ千葉県市川市日の出学園中学校、坂井由美子(家庭科)、谷本菜穂子(社会)。

三日目ということもあり、生徒のほとんどは睡眠不足で、表情は顔一面に「つかれ」の色が...

第一学期からの平和学習の積み重ね、第三学期では核爆弾のこわさを知るために、また同じような被害を二度とくりかえさないために、そういういのりもこめながら、和歌山県で建造されたこの第五福竜丸を他の入場者以上に、親近感と興味をもって参観へ和歌山県西牟婁郡白浜町立富田中学校、教師。

今月の「来館者の声から」は、学校の先生の「声」を集めてみました。



『船を見つめた瞳』—来館者の感想文をまとめた、この本のタイトルはなかなか好評である。『来館者の声』と共に「船を見つめた瞳」を読者のみなさんに読破らう出来ればと考えている。ただ今カメラの練習(?)中。乞うご期待!

▼NHKの「新夢千代日記」に出演した鈴木光枝さんが「ある被爆者の死」と題し、Kさんのことを書いていた。鈴木さんは、演じる役が広島島の被爆者であったため、原爆孤児の集まり「あゆみグループ」のメンバー、Kさんたちに被爆した時の様子を語ってもらい役作りをした。

▼一昨年の夏、原水爆禁止世界大会に参加した私は、ある要件でKさんにお会いした。Kさんはにぎりしめたハンカチで絶えず汗をぬぐい続けていた。鈴木さんのエッセイには「亡くなる二日前に三度目の認定被爆者の申請が却下され...」と。

▼広島はもう梅雨入り。原水爆禁止世界大会も間近である。(は)

大漁旗に見送られ夢の島から広島へ 統一をかため '84年平和大行進出発

「歩くことによって核兵器廃絶・軍縮・平和の意志表示をしましよう」 「ヒロシマ・ナガサキのこころを世界へ」
「'84年平和大行進」(原水爆禁止世界大会準備委員会主催)が十八日第五福竜丸展示館前を出発した。広島に向けての千キロの行進。米太平洋艦隊への配備がすす



む核巡航ミサイル「トマホーク」の模型、おそろいのエプロン姿で参加した婦人たちが、昨年に続いたの統一行進には約千人が参加。広島まで初めての「通し行進」に挑んだ被団協顧問の行宗一さん、「反核ゼッケン」の金子徳好さん

「平和憲章」を読み合い船に「誓う」 修学旅行の中学校でいっばい

平和憲章——
平和をつくり続けるために私達は何をすればよいのでしょうか。
私達の国、日本。
世界で最初に原爆の恐ろしさを知った国。

まず、その恐ろしさを世界の人々に伝えることが一番大切なことだと思えます。
戦いを好む人などこの世にいるわけない。
だから、世界中で戦争をしない事を誓いあおう。
そして、原水爆の製造禁止を世界

に大きな励ましが寄せられた。平和協会の本多喜美、斉藤鶴子両理事も参加した。
あまりに大きく行進にかかげられなかつたが、出発集会には、最後まで展示館をバックに第五福竜丸の大漁旗が風になびき行進を見送った。ビキニ・太平洋の心を世界に、統一をかため、国民とともに広島へ。船と大漁旗が見守っている。

に強く訴えよう。

平和—それは戦争が生んだ言葉
平和—それはだれもが願うもの
どうしたら、
くずれぬ平和をつくり続けていく
ことができるでしょうか。

私達は答えなければなりません。
みんなの心と力をひとつにして。
人間でありつづけるために。
(一九八四年五月一七日)

—修学旅行のシーズンである。
「平和教育」の場として、展示館

への期待は今、驚くほど高まっている。五月、展示館を修学旅行で訪れた中学校は十九校。
五月二十四日は、愛知県海部郡から豊江北中学校の三年生、三三二人が「平和憲章—平和をつくり続けるために」をたずさえて来館。第五福竜丸の前で、五クラスそれぞれ「平和憲章」を誓いあい、群読をした。

和歌山からは十枝の中学校。「自閉症の子どもに」どこが一番よかった?と聞くと、「福竜丸」と答えていました。今年もよろしくお願いします——昨年に行き今年も、福竜丸のふるさと和歌山から、たくさんの中学生が訪れた。千羽鶴のおみやげや「春雨や濡れて歩けば髪がぬける—三十年前流行ったうたです。子どもたちの説明の参考に」と、アドバースをしてくれる先生も。五月二三日は生憎の雨にもかかわらず、順々に五枝が訪れ、「和歌山」一色の一日となった。

ソ連大使館婦人代表も
五月二十九日、日ソ親善協会のよびかけで、ソ連大使館の婦人二八名が来館、平和協会の本多喜美理事の案内で見学した。
地球の明るい未来のためにがんばりましょうと全員がノートに署名美しい花束も贈られた。

マーシャル諸島被ばく者の要請に共同行動を

ジャーナリスト・桐生 広人

「核兵器・軍事基地をなくす沖縄国際会議」(4月28日30日・那覇市)に参加した。マーシャル諸島からの代表エジソン・アンジャイン氏に2年ぶりに再会した。エジソン氏は小学校の先生をして、現在イバイ島で小中学校の先生をして、丸展示館を一緒に訪ねた。前回は(81年)より、被ばくしたマーシャル諸島住民の実態が写真などで展示されていたことを大変よろこんでいた。

会議では核実験による被ばく島民の国際的な実態調査と医療援助を強く訴えた。また米国の恒常的なミサイル実験場であるクエジュレンの返還運動に支援を求め、米国の間で締結されようとしている自由連合協定の不当性を訴えた。マーシャル諸島住民が抱えているこれらの問題は、他の太平洋諸島(国)においても共通の問題である。ハワイ、ペラウの代表も指摘した。太平洋はあらゆる種類の核の被害と恐怖を受け続けている。それはマーシャル諸島北部やムルロワの核実験、クエジュレンその他の海上での核ミサイルの発射、追跡、標的、迎撃実験、ハワイ、グアム、フィリピン

軍基地の核基地化さらに核廃棄物の海洋投棄計画によってもたらされたこと述べた。そして、この6月に実施されようとしている米軍の核トマホークミサイル配備に対し、これらのトマホークはほとんどが艦艇発射型であることから、太平洋の諸国民に破滅的な惨禍をもたらす核戦争の危険を増大させる、としてその配備反対の国際共同行動を、ペラウ、ハワイ、マーシャル、フィリピン、グアム、タイ、グアムの代表ら呼びかけた。この会議において、太平洋諸島(国)住民らが、自らの発意によってトマホーク拒否の共同行動を呼びかけたことは印象的であった。しかしながら、マーシャル諸島の被ばく者らから70年代より要請され続けている被ばくの実態調査、医療援助に対し、この会議で具体的な行動が討議され提案されなかったのは残念なことであった。この要請は三・一ビキニデー中央集会においてもクエジュレン環境組合のラジ・タフト氏からも行われている。私たちが広島、長崎、ビキニと叫ぶ言葉の中には、マーシャル諸島の被ばく者も含まなければ片手おちである。一刻も早くマーシャル諸島被ばく者の要請に応える共同行動の必要を強く感じた。

第五福竜丸展示館開設 八周年記念祝賀会

六月十一日、日比谷公園・松本楼で第五福竜丸展示館開設八周年記念祝賀会が盛大にひらかれた。東京都関係者、船体の修理に力をそそぐ公園管理課、文化財建造物保存技術協会、専門家の方々も参加、展示館の一層の前進めざしこんだん、交流を深めた。(詳細次号)

賛助会員の拡大を!

新らたにおむかえした人々

賛助会員入会のお願にあたり

第五福竜丸平和協会第60回理事会(概況)

- 一九八四年五月二十八日(月)午後〇時半—二時半 本郷・学士会分館 出席理事・監事 三宅泰雄、檜山義夫、斉藤鶴子、猿橋勝子、田沼肇、本多喜美、田中健介。
- 1. 第59回理事会議事録承認
- 2. 活動報告(略)
- 3. 昭和58年度収支決算報告承認
- 4. 当面の活動方針(資料室建設の促進、建設計画書原案の大筋を了承。対都接渉を強め

て、次の方々が新しく会員になってくださいました。

- (個人) 田沼祥子、松本成比、野崎利雄、山本能布、村田芳昭、田中浩、重沢俊郎、野上燿三、山口啓二、イシガオサム、湯川和夫、町田茂、牛来正夫、熊取敏之、富永五郎、小西悟、渡辺昂、寿岳章子、藤原彰、碓井益雄、杉捷夫、近藤美智子(団体) 東大教育学部附属中・高校社会科学研究室、岩波書店。(6月5日現在、到着順、敬称略)

ありがとうございます。引き続き、第五福竜丸の保存と展示館の発展のため賛助会員の入会をお願いいたします。

第五福竜丸平和協会第60回理事会(概況)

- (1) ビキニ水爆被災30周年記念シンポジウムの開催。熊取敏之氏はか予定されている報告者の決定を急ぎ内容の具体化、参加要綱などを急いで作成発表する(写真集「母子でみる第五福竜丸」の発行。原案の大筋を了承、八月の発行をめざす)
- (2) 展示館開設八周年祝賀会の成功、評議員会での資料室建設問題での討論の充実をはかる(対次回理事会七月十六日予定)
- 5. 議事録署名人選任